

課題 ○相手の意見を聞いたり自分の思いを伝えることが苦手な子がいる
○失敗を恐れて挑戦せずにあきらめてしまう場面が見られる



I ねらい ①友だちと一緒にに関わりながら遊ぶことの楽しさを共有する
②自分なりの工夫と試行錯誤をしながらやり遂げる姿を育む

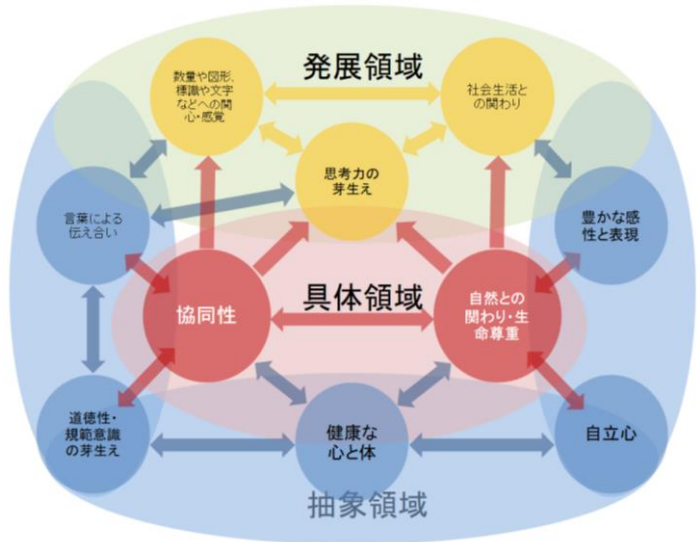


II 環境の構成と保育者の援助

【方針計画】

当町の恵まれた自然環境を活かしながら協働的な遊びを通じて育む2つの姿を具体的領域と仮定し、そこから試行錯誤による「思考力の芽生え」、ふるさと学習につながる「社会生活との関わり」など3つの姿を發展的領域と想定した。

また一人ひとりの子どもが集団での協働的な遊びに関われるよう役割分担や環境を構成しながら、K I Z U K U遊びの主人公として自分なりの工夫や試行錯誤によって達成の喜びを得られるよう援助する。



子どもの10の姿 想定イメージ

(1) 前年の秋にわくわく広場（園舎裏）で家造りをする。冬期、水槽でザリガニを飼育して小動物への興味関心が芽生え、春になり「ザリガニをもっと広い場所で飼育するための池を造りたい」「雪で壊れない頑丈な家を造りたい」との願いが生まれました。

お腹の足の形でオスとメスが分かるみたいだよ。



雪の重さでも壊れない丈夫な家を造りたいな



III 保育の場面

(2) わくわく広場に自分たちで素掘りの穴を掘って水を溜めるが水が溜まらないので、野尻湖ナウマンゾウ博物館に行って相談して、館長から大きなビニールシートをもらいました。（5月）

ドンドンお水入れてください



お水無くなって田んぼになっちゃった



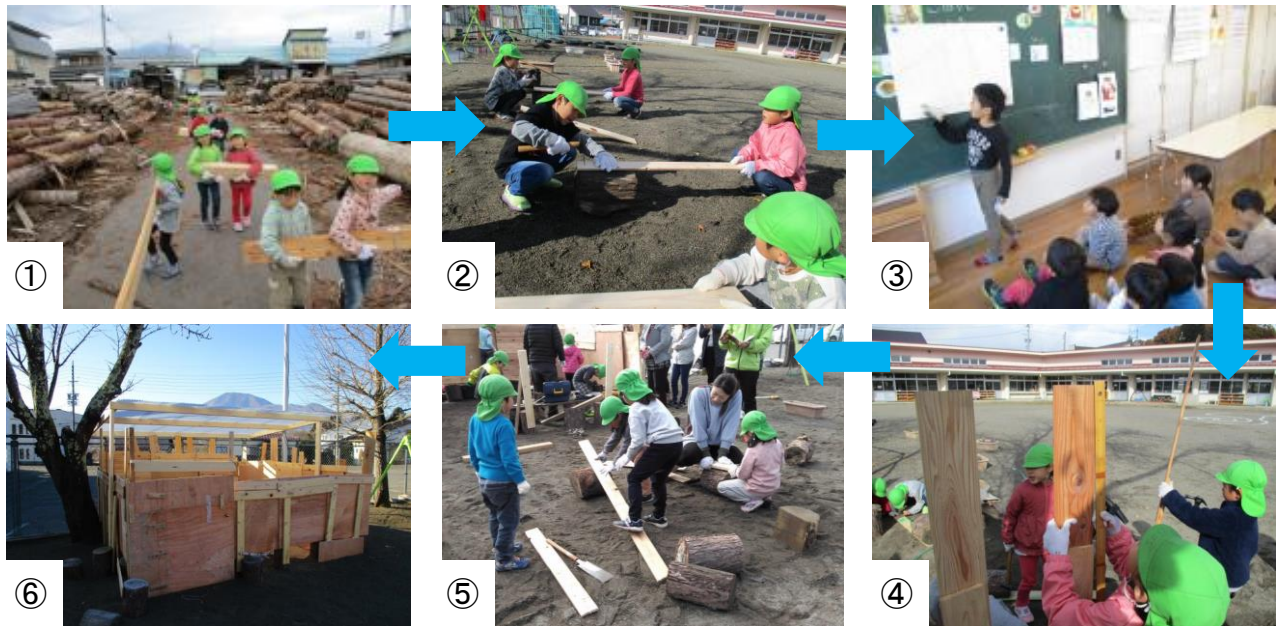
これを敷いたらきっとお水溜まるね



(3) 子どもたちと保護者が一緒になって池造りの大きな穴を掘る。館長からもらったビニールシートを子どもたちが協力して敷いて水を溜めることに成功しました。(6月)



(4) ①近所の製材場から材料を譲ってもらい協力して保育園まで運びます。②釘と金槌の正しい使い方を練習します。③どんな家を造りたいか絵に描いて友だち同士発表します。④同じ高さになるように自分なりに図ってみます。⑤ノコギリを使って長さをそろえます。(11月フィールド研修公開)
⑥近所のおじいちゃん、建築士さん、建具屋さんにも協力してもらい木の家が完成しました。



IV 学びの評価

一方的に自分の気持ちだけを主張して、やりたいことだけしていたのでは上手くいかないということに気付く姿が見られた。また試行錯誤しながら友だちと一緒に共通の目的へ発展し活動することの喜びや楽しさと子どもが自らの成長を家造りから感じる事ができた。

計画時に想定していた具体的領域から発展する3つの姿だけでなく「言葉による伝え合い」、「豊かな感性と表現」など10の姿全てが育まれる遊びとなった。



V 学びの連続性 大人から与えられた遊びではなく、子どもたちが主体となって試行錯誤したり友だちと一緒に協同して遊んだ幼児期の経験は、将来にわたっての主体的な学びへと向かう姿勢と自己肯定感を膨らませるレジリエンスにつながっていくと考える。